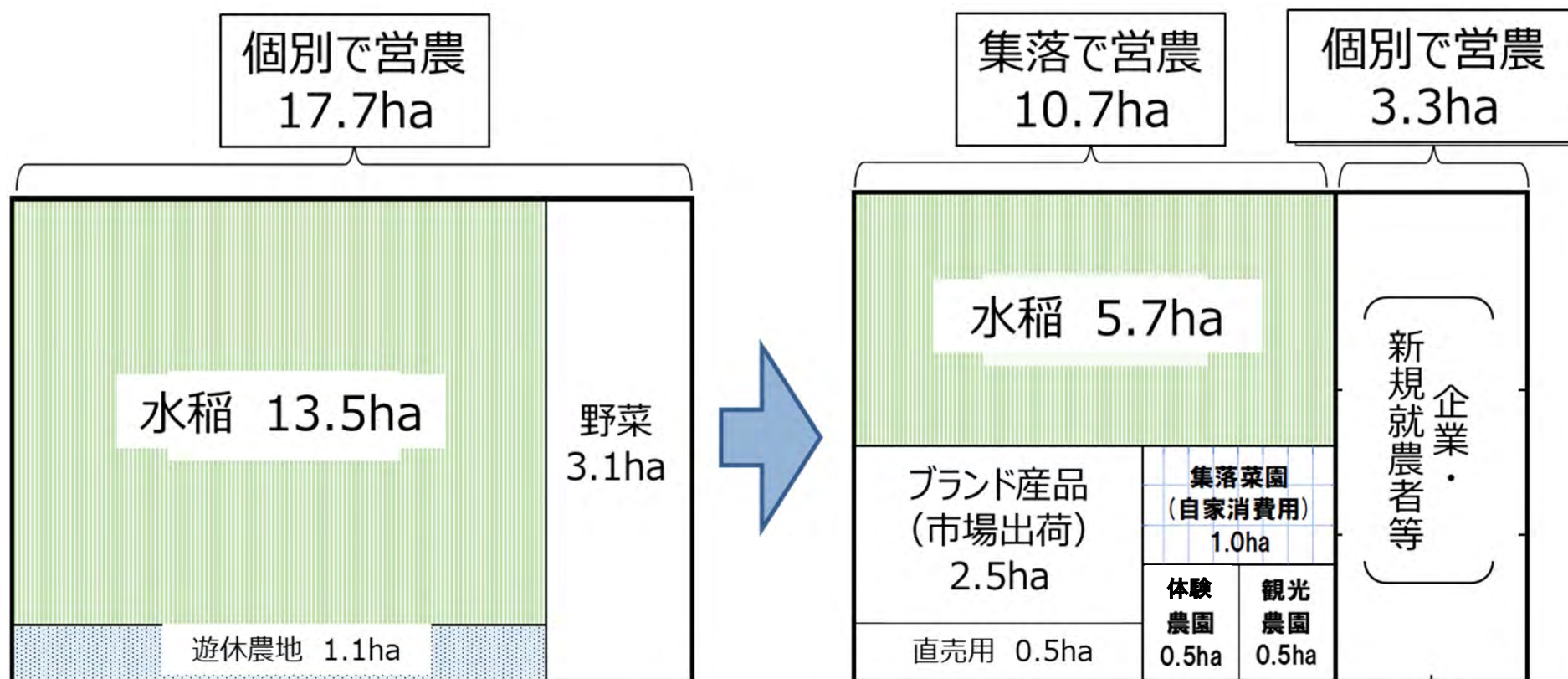


ビジョンにおける将来の土地利用計画のイメージ



- ・「今後の方向性」を踏まえて農地の利用をイメージ化
- ・水稲中心から高収益作物への転換や観光農園の開設、企業、新規就農者を積極的に受け入れ

協議会の現在

一歩ずつプランを実現

- ・ 集落営農法人を設立
地区農地の8割を法人へ集積
- ・ 生協との里地里山保全活動
「みんなの牧♡里プロジェクト」(愛称) を
さらに拡大 (協定締結)
- ・ ほ場整備事業の導入へ(令和3年度～)
具体的な土地利用を検討

具体的な土地利用の検討

集落営農の専門家を招いて、法人の営農計画を検討
あれがやりたい、これならできる
法人のメンバーがそれぞれの意見を持ち寄る



現在検討中の土地利用計画

地域の思い

集う人が第二のふるさととして
親しみを持ってもらえる
元気な『牧』を目指します！

牧を ずうっと 元気に！ 活き活き牧 元気プラン（案）

目 標

高齢化が進んでも、健康に暮らしていくためには活き活きとしたふるさとづくりが必要。お米づくりと観光農業を中心に“にぎわい”と“誇り”をもち、また、集う人には第二のふるさととして親しみを持ってもらえる元気な『牧』を目指します！

農地の保全活用

【3つの柱】

- ①水稲（ブランド化、大型機械導入）
- ②高収益作物（しゅんぎくなど）
- ③観光農業（地区全体）

にぎわいの創出

【5つの仕掛け】

- ・朝市の再開
- ・駐車場とトイレの整備
- ・直売所の整備（検討）
- ・飲食の提供（検討）
- ・地域の史跡めぐり（梅相院、行者の石像、鴻応山など）

担い手の確保

- ・新規就農者の受け入れ（合同会社が新規就農の受け皿として、研修をおこなう、農地を斡旋します）
- ・定年退職者
- ・牧と勝手に応援団、ふるさとファンクラブからの協力募集
- ・吉本住みます芸人制度の活用

⇒地元以外からも担い手を求めます！

関係機関の協力

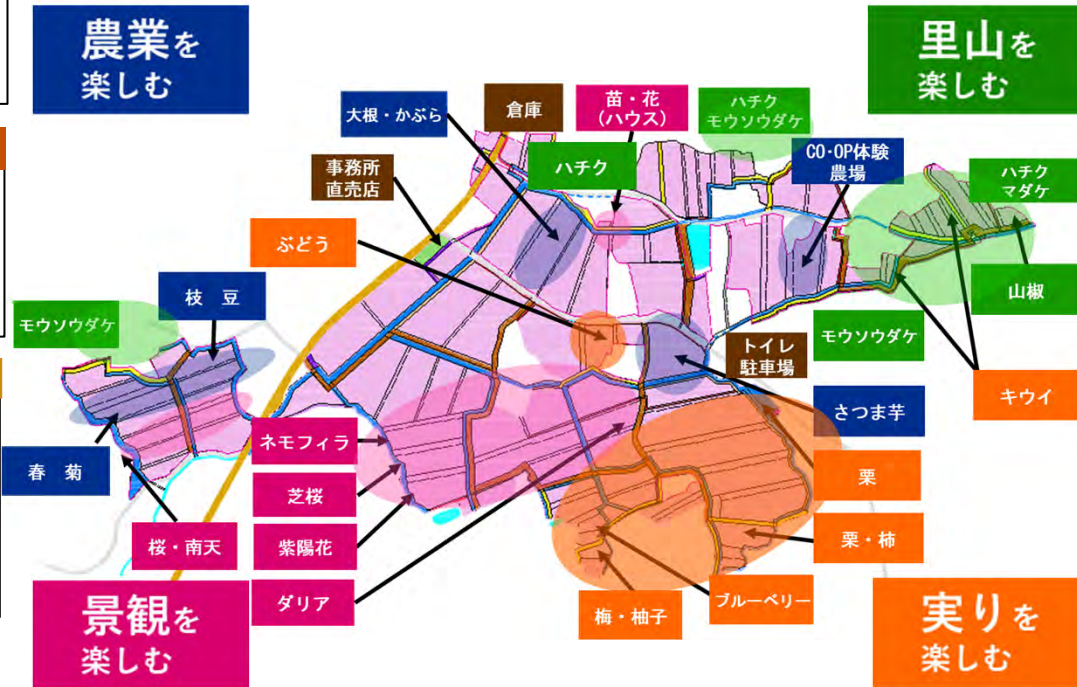
コープこうべ

- ・牧ととの活動（体験農園等）をより充実（組合員の参加増・品目充実）

J A大阪北部

- ・直売所等での取組 P R・チラシ配布など
- ・ほ場整備の円滑な実施、栽培指導・助言
- ・補助事業の活用支援・助言

活き活き牧♡元気マップ



みんなでやりましょう！

牧のみんなで
興味のあること、得意なこと、
できることは、
ぜひ協力してください！

元気な『牧』づくりは、
私たちが健康に暮らしていくためにも**タイセツ！**
ぜひ、ご参加を！
くつろぎのスペースに気軽に！

観光農園の 充実

議論の結果、牧を元気にするには4つの魅力を伝える、観光農業がいいと考えました。

里山を楽しむ

【R3・4～】

竹林整備を継続し、たけのこの収穫体験を充実
・たけのこ収穫体験と量り売り、炭焼きなど

【R5～】

- ・メンマづくり
- ・山菜料理のメニュー化検討 など



農業を楽しむ

【R3・4～】

これまでに取組経験のある品目を中心に、コープこうべとの連携を深めます。

- ・しゅんぎく、黒豆、さつまいも、さいの目の収穫体験充実

【R5・6～】

- ・大根の収穫体験



※品目は随時拡大

実りを楽しむ

【R5・6～】

既に植えられている柿や梅なども活かします。

- ・栗、柿など



※品目は随時拡大

景観を楽しむ

【R3・4～】

- ・ダリアの試作
- ・コスモスの収穫体験

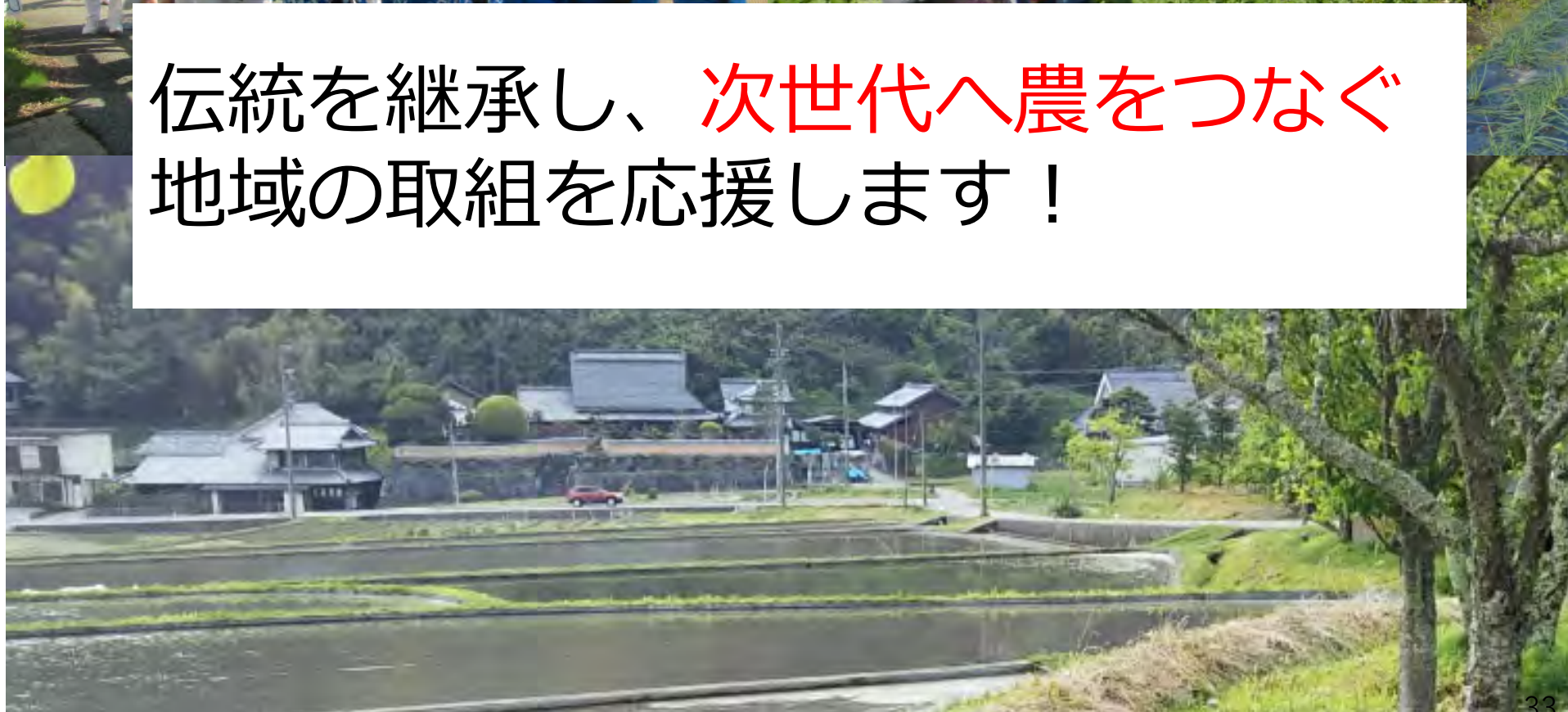
【R5～】

- ・ダリア園の開園（花摘み取り）
- ・法面などを季節の花で集落を飾っていきます（ネモフィラ、水仙、芝桜、彼岸花、コキア、あじさい、クリスマスローズ）





伝統を継承し、次世代へ農をつなぐ
地域の取組を応援します！



府域への展開について

農空間づくりプランと人・農地プランの一体的な推進

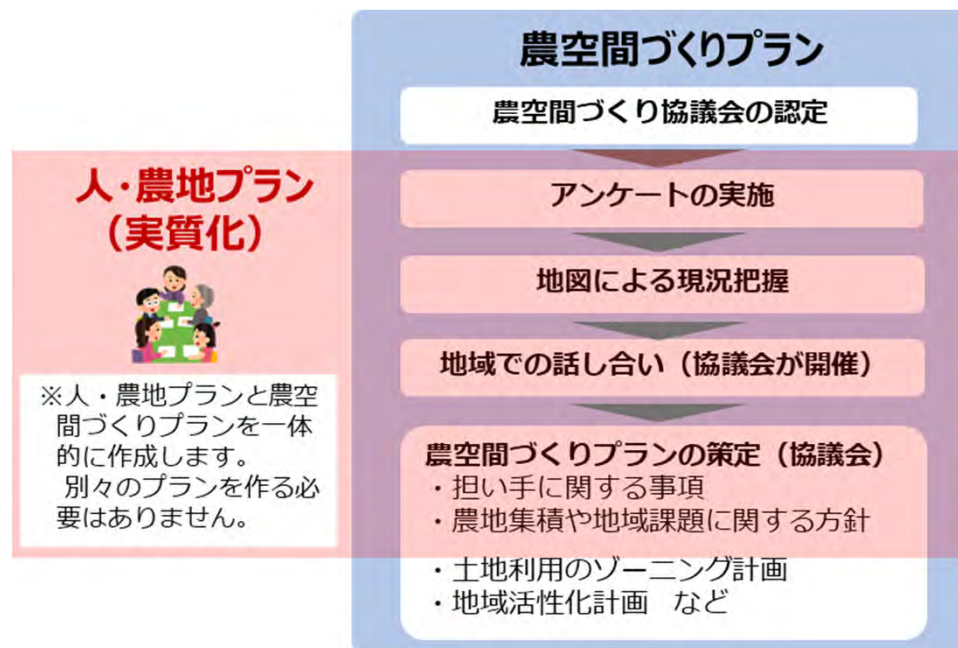
人・農地プランの実質化にあたっては、地域主体での農空間づくりプラン策定と一体的に推進することができます。

農空間づくりプランとは？

大阪府都市農業・農空間条例による農空間保全地域制度に基づき、農家や地域住民等で組織する「農空間づくり協議会」において地域の将来像を話し合い、実現に向けた計画を「農空間づくりプラン」にまとめ、プランに基づく取組みを通じて農地の計画的な利用を促進するものです。

府は市町村や農業委員会、JA等関係機関と連携して、協議会の取組みを支援します。

人・農地プラン(実質化)と農空間づくりプランの進め方(例)



農空間づくりプラン策定にあたっては、大阪府は関係機関と連携してアンケートや地図作成のお手伝い、活用できる事業や先進事例の紹介等、協議会の話し合いとプランづくりを支援します。

農空間づくり協議会による取組事例

豊能町 牧地区

- ・アンケート調査を元に、後継者の有無や農地利用意向を地図で見える化。
- ・将来の地域農業の存続に危機感を抱き、協議会で話し合いを開始。地区の方向性を農空間づくりプランに取りまとめ。
- ・農空間づくりプランに基づき、集落営農法人の設立や、法人の貸借を前提としたほ場整備に取組中。
- ・農空間づくりプランの成果を活用することにより、集落営農法人を中心経営体とする人・農地プランを策定。



【農地の保全活動】



【話し合いの様子】

富田林市 伏見堂地区

- ・高齢化や担い手不足による農地の荒廃を危惧。
- ・協議会を設立し、ほ場整備を前提に地区外の担い手を受け入れる方針を決定。
- ・参入希望者を公募し、人・農地プラン（農空間づくりプラン）で中心経営体に位置付け。参入希望者への貸借を前提とするほ場整備を実施中（R2～R6）。

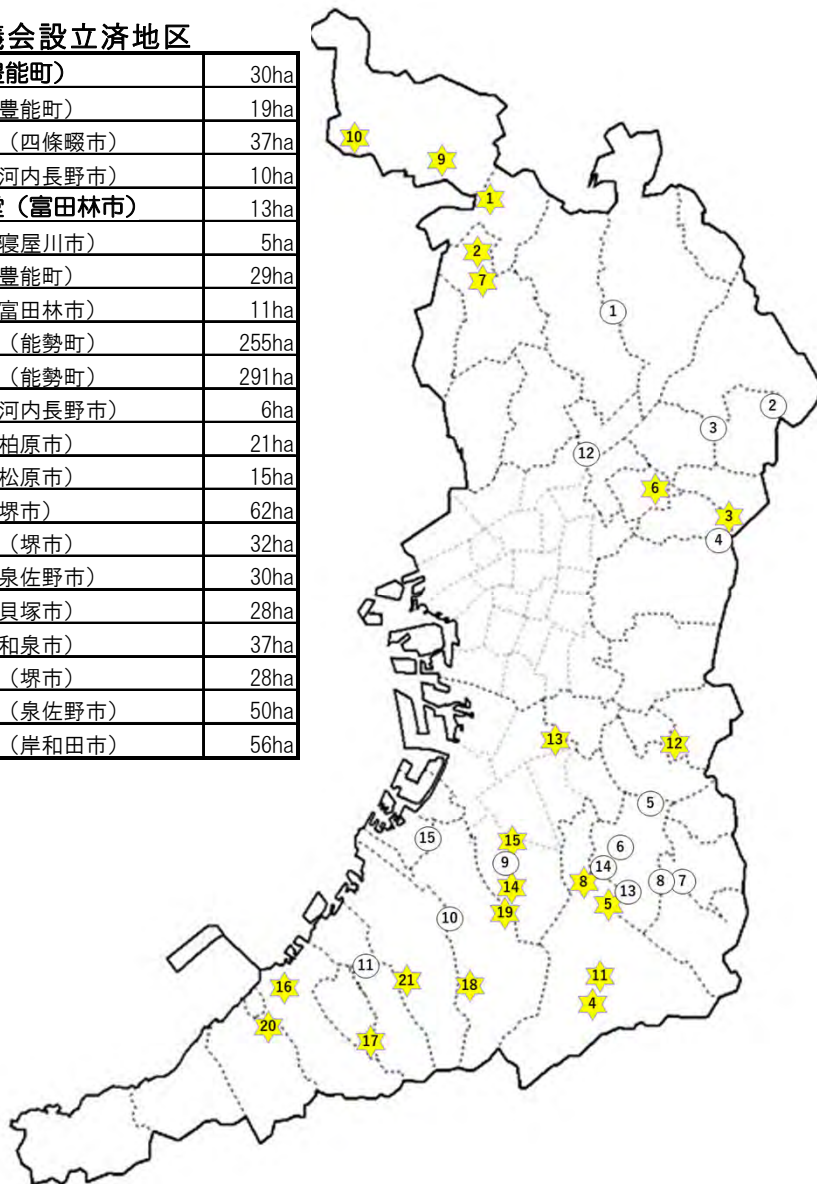


【担い手選考】

この取組みを展開するためには・・・

★ 協議会設立済地区

1	牧（豊能町）	30ha
2	川尻（豊能町）	19ha
3	下田原（四條畷市）	37ha
4	惣代（河内長野市）	10ha
5	伏見堂（富田林市）	13ha
6	高宮（寝屋川市）	5ha
7	高山（豊能町）	29ha
8	須賀（富田林市）	11ha
9	能勢東（能勢町）	255ha
10	能勢西（能勢町）	291ha
11	石仏（河内長野市）	6ha
12	横尾（柏原市）	21ha
13	三宅（松原市）	15ha
14	長峰（堺市）	62ha
15	陶器北（堺市）	32ha
16	北中（泉佐野市）	30ha
17	木積（貝塚市）	28ha
18	横山（和泉市）	37ha
19	鉢ヶ峯（堺市）	28ha
20	日根野（泉佐野市）	50ha
21	神於山（岸和田市）	56ha



課題

- 高齢化や後継者不足により、地域の活動等をコーディネートする人材が不足
- 既存の専門家派遣事業では、地域の課題への単発的な助言・指導

人に着目した制度

地域の取組み内容に応じ、専門的知識や経験を有する人材や団体を継続的に派遣できる制度の創設が求められる

ご清聴ありがとうございました